

「生涯活躍のまち」 ～八幡平市版CCRCの実現に向けて～

全国的に少子高齢化が進み、人口減少が危ぶまれ、地域活力の維持をいかにしていくかが課題となる昨今。対策方法として首都圏などから地方へ移住定住の促進が挙げられており、高齢者が健康なうちに移り住んで、健やかで活動的な生活を送れることを目的としたまちづくりへの取り組みがあります。

CCRC(継続的なケア付きの高齢者共同体)という概念の下、いくつになっても生きがいを持って暮らせる活力ある「生涯活躍のまち」として、本市もその在り方と方法を模索しつつ、実現に向けて動き始めています。

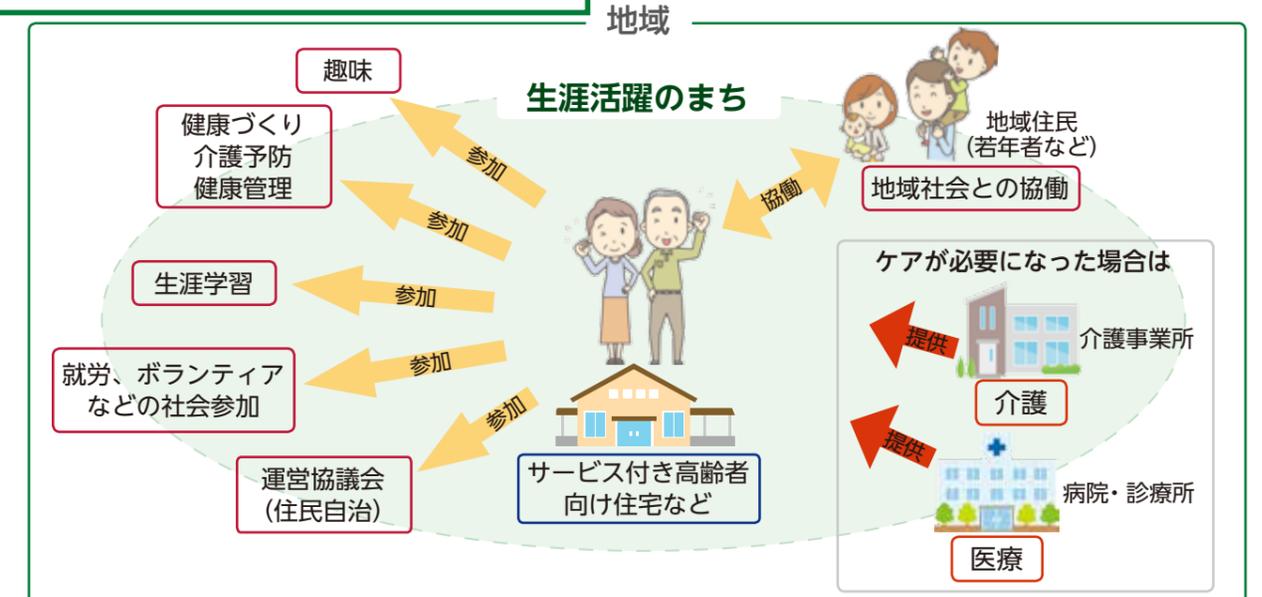


CCRCとは、元々米国生まれの概念で、仕事をリタイアした人が健康なうちに移住し、生涯学習や社会活動などで第2の人生を楽しみ、介護が必要な状態になったらそこで一生継続的なケアが受けられる高齢者居住コミュニティのことを指します。日本国内では、シニアの生きがい創出、地方の高齢化や人口減少を解消する切り札として「生涯活躍のまち」という名称で政府の地方創生の主要施策になっており、すでに実現へと取り組んでいる自治体や企業があります。

「生涯活躍のまち」構想は、東京圏をはじめとする地域の高齢者が希望に応じ地方に移り住み、多世代と交流しながら健康でアクティブな生活を送り、必要に応じて医療・介護を受けることができるような地域づくりを目指すものとされています。市内では、それを具現化する場所として「オークフィールド八幡平」(サービス付き高齢者向け住宅)が27年12月から運営を開始させています。入居者は、今年2月末時点で7人。東京圏や盛岡、市内からの入居者もいます。

CCRCの取り組みは、地域の特性を生かして、生きがいのある生活を送ることができるまちづくりを目指すものです。市では、住民や移住者が下図のような様々な関わりの中で、いくつになっても生きがいを持って暮らせるまちづくりを進めていきます。

「生涯活躍のまち」構想 サービス・機能 イメージ図



出典) 内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局「生涯活躍のまち」構想に関する手引き



オークフィールド八幡平
フィールドマネジャー
最上 雄吾さん

入居者も住民も相互に活躍するために
コーディネートを行うのが僕らの役目

「オーク」は英語で、柏の樹木を意味し、立地する柏台地区を表しています。「フィールド」は挑戦できる場や地域交流の場など、いろんなことができる可能性を持った「場所」という意味を込めています。ここは、高齢者がただ住んでお世話をされる「施設」ではなく、ケアも伴う中で、入居者一人一人が生きがいを持ち、自分のペースでやりたいことを実現するための場所です。

また、生きがいは人と人との交わり合いの中から生まれてくるものと考え、ここを開かれた交流拠点として、入居者だけではなく、地域住民も活躍できるような場所にしていきたいです。一人一人が培ってきた知識・教養・経験などのスキルを生かし、個人の希望に応じた活躍が実現できるようなまちづくりを積極的にコーディネートしていくことが、オークフィールドの役目とします。



オークフィールド八幡平の全景
建物左側がレストラン棟「オークテラス」。右側が全32戸を有する住居棟



伊藤 實さん
69歳 = 寺田 =

「和」のある喫茶空間づくりが僕の夢
学生時代、コーヒーが好きで通った喫茶店。いつか喫茶店のようにコーヒーを通じて人に喜んでもらえるような空間をつくりたいという夢をずっと抱き続けていました。



伊藤さんが入れるコーヒーと入居者女性陣がつくるケーキでサロン「オークカフェ」を展開

趣味のコーヒーが役立っています。今、オークフィールドとの出会いでさらにその空間を作れるという夢がカタチになろうとしています。



オークカフェで提供するお菓子作りを行う入居者の皆さん

オークフィールド八幡平では、レストラン棟の「オークテラス」を活用して、入居者と地域住民の交流を中心としたイベントなどを展開したいと考えています。その第一弾として実現したコーヒーサロン「オークカフェ」は毎週金曜日午後2時から、週ごとにテーマを設けて開催していきます。どなたでも参加できます。

また「オークテラス」は会議スペースや語らいの場所として活用できます。人の流れを作ることから、関わる人、一人一人の自己実現につながる可能性を見出していきたいと考えています。見学もできます。お気軽に足を運んでください。

問い合わせ先 オークフィールド八幡平(☎71-1750)